

[sirius]
AIDEM PHOTO GALLERY

Sirius Presents Photo Exhibition Vol. 798
アイデムフォトギャラリー「シリウス」年頭企画展

Etsuko Enami Photo Exhibition

榎並悦子 写真展

光の記憶

見えなくて見えるもの

— 視覚障害を生きる

Memories of light
— living as visual impairments

2020年1月6日(月) - 15日(水)

10:00 ~ 18:00 [最終日は 15:00 まで]

日曜日休館 入場無料

アイデムフォトギャラリー「シリウス」

ギャラリートーク：1月13日(月)(祝)

14:00 ~ 参加費無料 予約不要

榎並悦子 [写真家]

ゲスト

鈴木加奈子 with アリエル [トロンボーン奏者+盲導犬]

小暮愛子 with コニー [ライフコーチ・パラ空手家+盲導犬]

視 覚障害をテーマとした写真展を開催します。初めて視覚に障害がある方と接したのは中学生の時でした。訪ねた高齢者施設では、針仕事や楽器の演奏、造花を作ったり、指先で読書をする人の姿がありました。目が不自由という制約から、マイナス面ばかりをイメージしていた私には、その姿は衝撃的でした。そしてまた、見えていれば何でも無いことが、見えないことで大きな危険や恐怖につながるということも教わりました。その時の縁が繋がり、今回の写真展テーマとなりました。

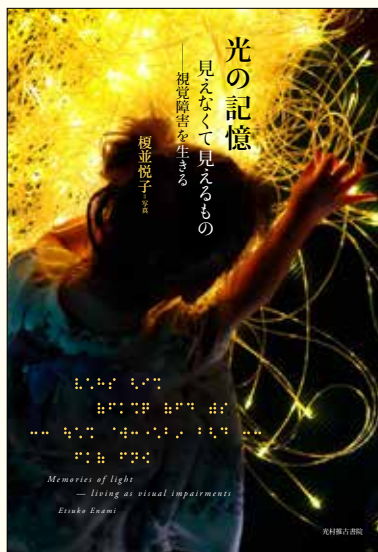
そ もそも「見える」とは何でしょうか。見えていることは視ていることでしょうか。人は五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）によって外界の状態を認識するといいますが、視覚でなくとも、触ることや聴くことで「視る」ものもたくさんあるのだと、視覚障害の方に気づかされました。

子 どもたちが通う「あいあい教室」、盲導犬の育成施設、トロンボーン奏者、社交ダンスやボート競技などと取り組む人たちの様子が、視覚障害について考える一助となり、バリアフリーな社会が広がっていくことを願っています。 榎並悦子



榎並悦子 写真集 光の記憶

見えなくて見えるもの — 視覚障害を生きる



著者：榎並悦子
体裁：B5 変型
上製本
144 頁

予価：3,000 円＋税
発売日：2020 年 1 月
発行：光村推古書院

アイテムフォトギャラリー「シリウス」

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-4-10 アイテム本社ビル2F
tel.03-3350-1211 fax.03-3350-1240

- 東京メトロ丸の内線「新宿御苑前」駅
①新宿門方面出口より徒歩2分
②大木戸門方面出口より徒歩2分
③新宿一丁目方面出口より徒歩2分
※エレベーター有



[sirius]
AIDEM PHOTO GALLERY

<https://www.photo-sirius.net>

フォトギャラリー連絡会の申し合わせにより、祝花は固くお断り申し上げます。

AIDEM